

教育長様

研究コース	グループ研究Aコース	選定番号	9
校園コード(代表者校園の市費コード)		631363	

代表者 校園名: 姫島小学校  
校園長名: 高橋 正実 校印  
電話: 06-6473-0121 FAX: 06-6474-8308  
申請者 校園名: 姫島小学校  
職名・名前: 主務教諭・野網 学  
電話: 06-6473-0121 FAX: 06-6474-8308  
代表者校園 事務職員名: 中尾 円

### 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	<b>感じ取る力や思考する力を育む図画工作科鑑賞領域の指導 —ルーブリックを活用したパフォーマンス評価を軸に—</b> ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) パフォーマンス評価、ルーブリック、主体的・対話的で深い学び、対話による鑑賞学習、図画工作科、鑑賞領域 ※日本美術教育学会研究チーム(松岡宏明教授[代表]【大阪総合保育大学】、新関伸也教授【滋賀大学】、佐藤賢司教授【大阪教育大学】、村田透教授【滋賀大学】)と連携して本研究を進める。			
3	研究目的	図画工作科における鑑賞学習指導は、その重要性の理解や研究の高まりに比して普及が進んでいないことが、2015年に日本美術教育学会研究チームが行った調査と分析で明らかになっている。その理由として、評価方法の難しさが挙げられる。授業者が指導に取り組みやすくするために、図画工作科鑑賞領域においてルーブリックを活用したパフォーマンス評価を取り入れ、授業の目標と評価基準を明確にする。そして、大阪市における鑑賞学習のスタンダードモデルを作成する足掛かりをつくる。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 ★公開授業・研修会(校内に授業を公開し、その後鑑賞学習研修会を開いた) ☆研究発表会(校内外に公開した) ◇管外出張(学会や研修会に参加した)  ★5/25 公開授業・研修会① 葛飾北斎作『神奈川沖浪裏』 ★6/29 公開授業・研修会② 俵屋宗達作『風神雷神図屏風』(指導講評、松岡教授) ★7/9 公開授業・研修会③ 上田薫作『なま玉子b』(指導講評、松岡教授) ◇8/10 日本美術教育学会三重大会に参加 ◇8/11、12 京都造形芸術大学acop対話型鑑賞研修会①に参加 ◇9/1、2 京都造形芸術大学acop対話型鑑賞研修会②に参加 ★11/9 公開授業・研修会④ 葛飾北斎作『富嶽三十六景Ⅰ』(指導講評、山田准教授) ★12/14 公開授業・研修会⑤ 葛飾北斎作『富嶽三十六景Ⅱ』(指導講評、新関教授) ★12/18 公開授業・研修会⑥ 葛飾北斎作『富嶽三十六景Ⅲ』(指導講評、山田准教授) ◇12/25 鑑賞学習校内研修『ルーヴル美術展』(大阪市立美術館) ★1/15 公開授業・研修会⑦ モンドリアン作『コンポジション』(指導講評、山田准教授) ★1/31 公開授業・研修会⑧ モンドリアン作『コンポジション』(指導講評、松岡教授) ★1月中 鑑賞学習を定式化した「鑑賞学習ルーブリックを活用した授業案(高学年編)」を作成した。 ☆2/8 公開研究発表会 モンドリアン作『コンポジション』(指導講評、松岡教授) 「鑑賞学習ルーブリックを活用した授業案(高学年編)」リーフレットを500部配布。 ★2月中 1年間の研究の振り返り、アンケート集計作業 次年度への研究の洗い出し(課題の整理)			

	5 成果・課題	<p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>○児童アンケートから「感じ取る力や思考する力」の育成を確認できた。  (質問内容は、平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査の図画工作科に準ずる)</p> <p>①図画工作の授業で作品を鑑賞する活動に関心をもって取り組みましたか。  4月 64.2% → 7月 71.4% → 12月 82.1%</p> <p>②図画工作の授業で感じたことを話したり友だちと話し合ったりすることが好きですか。  4月 42.8% → 7月 64.2% → 12月 78.5%</p> <p>③日本の伝統や文化を感じる作品に興味はありますか。  4月 46.4% → 7月 50.0% → 12月 60.7%</p> <p>④図画工作科を学習して、ものの美しさを感じるようになったと思いますか。  4月 46.4% → 7月 64.2% → 12月 67.8%</p> <p>⑤自分たちの作品の、よさや美しさを感じ取ることができるようになったと思いますか。  4月 39.2% → 7月 53.5% → 12月 60.7%</p> <p>⑥日本や外国の作品の、よさや美しさを感じ取ることができるようになったと思いますか。  4月 28.5% → 7月 50.0% → 12月 67.8%</p> <p>&lt;そう思う&gt; &lt;どちらかといえばそう思う&gt;の肯定的な回答の割合を60%にするという当初の目標を考えると、全ての項目でクリアしており、①と②については、大きく上回っている。また、アンケートにおける児童の意識の変化以上に、ポートフォリオ評価において発言やワークシートの記述から「主題」「形」「色」「配置・構成」の観点が定着しており、それらの知識・技能を自由に活用していることが確認できた。「感じ取る力や思考する力」の育成が確認された。</p> <p>○2月に行う研究発表会の後に教職員に対しアンケートを実施し、肯定的な回答が100%に近かった。</p> <p>①本日の公開授業は、明日からの授業に生かせるものでしたか。 96.0%</p> <p>②本日の研究発表会の内容は充実していましたか。 100.0%</p> <p>③現場のニーズや今日的課題に応えたものでしたか。 100.0%</p> <p>④本日の研究発表全大会の内容は、わかりやすかったですか。 100.0%</p> <p>感想・意見の自由記述においても、鑑賞学習だけに留まらず、思考ツールやアクティブラーニング等を自分の授業に活かしたいという内容が多かった。1年間を通し、「鑑賞学習」「アクティブラーニング」「ルーブリック」というキーワードにおいて、一定の提案ができ、成果があったと考えている。</p> <p>○鑑賞学習を定式化し実践して検証した後、「鑑賞学習ルーブリックを活用した授業案(高学年編)」を作成し、高学年における鑑賞学習のスタンダードモデルを示すことができた。作成したリーフレット500部は研究発表会の参加者全員に配布したり、逡送で大阪市内の各小学校に配布したりして、多くの教職員に拡散した。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>●児童へのアンケートにおいて、比較的、数値が低かった項目では、授業の中で直接的に「伝統や文化」「よさや美しさ」「外国の作品」を扱っていないことに原因があると考えられる。図画工作科の目標は、2学年分をまとめて学年の目標として示されている。それらの課題は、6年生へ持ち越し、授業で直接的に触れるようにしたい。そのため、児童理解を踏まえ、教育課程を編成し、題材を設定することが大切だと考える。具体的には、「鑑賞学習ルーブリック」の他の観点である「歴史的な位置づけ、文化的価値」「社会・環境とのつながり」を含む「作品にまつわる知識」の観点を授業に用いる。</p> <p>●依然として図画工作科鑑賞領域の「表現(制作)に取り組みせることで目一杯」といった内的要因の課題もあった。5年生の担任として、1学期には全2時間の授業を3本、2学期には、全1時間の授業を2本と関連した授業を2本行った。時間の確保は非常に厳しかった。他教科とのバランスや運動会、学習発表会などの学校行事にも取り組む必要がある学級担任にとって、図画工作科鑑賞領域を計画的に段階的に実践するのは、時間的に大変厳しい状況である。1学期間に2時間程度の鑑賞学習のモデルを低・中・高学年別に示す必要がある。</p> <p>●これらの課題を踏まえて、次年度は6年生の鑑賞学習を実践し、今年度の課題を解決できるように授業に取り組みたい。また、「鑑賞学習ルーブリックを活用した授業案(高学年編)」をリフレクションし、低学年編、中学年編を作成して全学年のスタンダードモデルを作成したい。</p>												
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">研究発表会</td> </tr> <tr> <td>日 程</td> <td>平成 31 年 2 月 8 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 60 名</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td colspan="3">大阪市立姫島小学校</td> </tr> </table>	研究発表会				日 程	平成 31 年 2 月 8 日	参加者数	約 60 名	場 所	大阪市立姫島小学校		
研究発表会														
日 程	平成 31 年 2 月 8 日	参加者数	約 60 名											
場 所	大阪市立姫島小学校													

※上記の内容について、原則としてフォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成31年2月25日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)